

令和5年度普及指導活動評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター大島事業所  
大島普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
大島における園芸作物の産地力の維持・強化	A  (評価内訳) A 4人 B 0人 C 0人	<p>多様な花きの中から当地において農業経営の主要となるセンリョウ、クチナシを選び活動を行っている。特産物のアシタバ後継者支援も含め、活動対象と目標が明確化され、数値面で目標が達成されてきている点を高く評価した。</p> <p>・農家組織との密な連携により規格の提案に至っている。町役場など関係機関との協力連携構築体制も評価できる。</p> <p>・具体的な圃場調査により、品質低下の原因が把握されている。</p> <p>・農薬の使用方法、土壌の改良等、農家の苦手な部分を的確にフォローしている。</p>	<p>さらに活動の成果をあげていくための活動、取組を期待する。</p> <p>・センリョウ、クチナシに続く、大島に適した新品目の開拓。</p> <p>・生産量だけでなく、売上高や所得面での評価も必要。</p> <p>・出荷後の花落ちや実落ちなど、消費者や市場での評価について把握し、対策について支援してほしい。(高付加価値化につながる)</p> <p>・高齢化が進む中での省力的技術の開発。</p> <p>・アシタバは、規格面で他の島とも協力。(規格の統一化)</p>	<p>管内の切枝・切花の出荷は、個人で出荷が主体なので関係機関と協力しながら生産者部会及び個別に対する指導を通じ、それぞれに必要な支援を継続して行う。</p> <p>・この長期計画では、市場からの期待の高いセンリョウ及びクチナシの生産拡大・担い手確保に向けた支援を重点的に行っているが、大島においてはその他の切枝、切花の生産・出荷も行われていることから様々な作目においても普及指導を行っている。今後も普及指導を通じて生産者の要望や市場の状況を注視し、新品目の開拓に向けた情報を得ていく。</p> <p>・今後の普及指導計画で、把握した栽培事例を事例集としてまとめる際に、栽培管理に加えて経営面も確認・評価を行い、新たな担い手の確保・育成に活用していく。</p> <p>・出荷後の評価については、生産者と市場の意見交換の際に確認する。また、出荷後の品質保持の向上のため、引き続き前処理剤の検討を行っていく。</p> <p>・センリョウ、クチナシ、アシタバとも現地の生産者では、ご指摘のとおり省力化が求められており、技術導入を進めている。今後、新たな省力化技術の情報収集を行い、センリョウ、クチナシ、アシタバの一層の省力化につながる技術導入を検討していく。</p> <p>・アシタバは、全島一体の島しょ農協の時に統一した出荷規格を作成しており、大島では現在も当時の規格を活用し、出荷している。今後も他の島の規格について情報収集を行い参考にしていく。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- (1) 売上の向上を目指すには、観光をはじめとする他産業との連携の視点が必要。他産業連携におけるリーダーシップの確立にも取り組んでほしい。
- (2) 伝統的な産物であるツバキも取り上げてみてはいかがでしょうか。
- (3) 技術力の高い農業者と協力するなど、地域に溶け込み、信頼関係ができていることがよく分かりました。

令和5年度普及指導活動評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター大島事業所  
大島普及指導センター新島分室

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
新島村・神津島村における農業担手の育成と生産・流通の振興	<p>A</p> <p>(評価内訳)</p> <p>A 4人</p> <p>B 0人</p> <p>C 0人</p>	<p>自給的農家を兼業農家へ育てようとするなどの対象集団の発掘方法や、ECサイトでの収益確保の方法など、着眼点に優れている点が評価できる。</p> <p>・農業相談会を防災無線で広報し、就農や農業への関心向上に繋げている点は珍しい取組で、評価できる。</p> <p>・島内農家やJAとの協力により共同防除を確立し、高齢化による防除困難化への対応がなされている。</p> <p>・サツマイモ優良種苗導入のためメリクロン苗の供給体制を構築。</p> <p>・島内販売組織の立ち上げにより、販売力の強化がなされている。JAや流通事業者との連携により、ECサイトが立ち上げられ、農家個人としてのブランド化も図られている。</p>	<p>目標達成まであと僅か届かなかったということもあり、まだまだ取り組みを拡大できる可能性を感じた。</p> <p>・島内需要の掘り起こしや更なる栽培支援が必要。</p> <p>・担手が不足しているのならば、他産業との連携が必須。学生の長期実習先、ボラバイトやワーケーションを取り入れてはどうか。</p> <p>・島では自然環境が厳しく、農薬に頼らざるを得ない場面もある。生産者への指導を継続すると同時に、農薬を適正使用していることのアピールは重要。</p> <p>・共同防除を続けていくためには、作業を中心的に担うリーダーの育成も重要。</p> <p>・EC販売に関する目標設定や出荷関連サービスに関する支援。</p>	<p>1 農業担手の育成、2 流通システムの構築、3 特産品の安定生産について、農業者や団体に対し指導を行い、引き続き関係機関と連携し、支援を行う。特に特産品については、島外販路を開拓し、確実に収益を得ることができる環境を整備する。</p> <p>・島内需要の掘り起こしについては、島内流通を担う団体に対し助言を行う。栽培支援については、島内流通用野菜生産の拡大でこれまで取り組んできた収穫期拡大の事例を活用し、生産者団体や農協に対し栽培指導を行う。</p> <p>・学生の長期実習、ボラバイトやワーケーションなどの島内外での事例について調査や情報収集を行い、新島村で実施可能か役場など関係機関と共に検討する。</p> <p>・これまで農薬をあまり使用しない栽培だったこともあり、消費者に対し農薬を適正使用していることのアピールはあまりされてきていない。農薬の適正利用と共に生産履歴の記帳について重点的に指導しており、生産履歴から適正な利用の確認が取れる状況にある。今後、農協と連携し、消費者に対し農薬を適正使用していることのアピールができるよう、検討する。</p> <p>・神津島では共同防除の取り組みをレザーファンとアシタバで共同実施することを検討している。アシタバの生産者部会である神津島農業協同組合あしたば生産部会は比較的若い生産者が所属している事から、作業を中心的に担うとともにリーダーになりうる資質がある。今後、農協と連携し作業を担う生産者に対し、動力噴霧器の使用方法や薬剤選びなどの防除技術について指導を行う。</p> <p>・EC販売についてはECサイトでの販売農家数を目標とし、販売を行った。出荷関連サービスに関する支援は、今後も島外向け流通システムの構築に向け商談に必要な書類の作成指導することで支援していく。</p>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- (1) 新島にある「助け合い」の強みをいかして、全体を底上げできればよい。
- (2) 新たな販路の確保については、荷姿の検討、価格づけ等、普及指導員に頼ることがたくさんあると感じた。
- (3) アメリカイモのようなそこにはかない食材は地域の宝なので、大切にしてほしい。

令和5年度普及指導活動評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター三宅事業所  
三宅普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
島外出荷品目の生産性向上および新たな換金作物の導入と生産振興	<p>A</p> <p>〈評価内訳〉 A 4人 B 0人 C 0人</p>	<p>島しょ部の中でも、とくに自然環境が厳しい中、少人数で効果的な活動を行っている点が高く評価できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害に対応するための新たな品目導入に貢献している。災害からの復旧のモデルとなりうる。</li> <li>・火山ガス耐性、土壌pH改善など科学的知見からアドバイスしている。</li> <li>・パッションフルーツの垣根栽培により高温障害の回避に貢献している。</li> <li>・栽培方法をYouTubeで配信するなど、新しい媒体を使用した普及活動にも取り組んでいる。</li> <li>・生産者組織の立ち上げを実現している。</li> </ul>	<p>具体的な活動としての改善点は少ないが、特殊な環境ゆえに計画作成の際の参考にしていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入する品目の選定などの手法が、やや行政主導が強い印象がある。環境に耐える品目の選定が求められるため、仕方ない面もあるかもしれないが、野菜など島内ニーズに応じた品目の振興も求められる。</li> <li>・自然災害による投資リスクが高い島にも関わらず、スペックが高い栽培施設が導入されている印象を受けた。環境への対応だけでなく、防除回数削減など付加価値へ繋げることも期待される。</li> <li>・厳しい環境をアピールする重要性。</li> </ul>	<p>既存の島外出荷できる換金作物（パッションフルーツ、キキョウラン、コルディリーネ、ヒサカキ、アシタバ）の生産性を向上させ所得の向上を図るとともに、新規の換金作物（カンキツ類）を積極的に導入し、生産振興に加えて島内の観光等産業振興とも連携を図ることで、産業としての農業の魅力をさらに向上させ、農業者の確保を進めることを目標に活動を展開していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レモンの導入に関しては、「三宅島カンキツ研究会」および村と協議し、合意形成を図りながら選定を行っている。次年度からは導入したレモンの収穫が始まるため、販売・加工・流通に関して研究会・村・商工会・観光協会等と連携しながら支援を行う。島内流通野菜は、「三宅島地産地消部会」が（一社）三宅島農業振興会を通して島内直売所や学校給食に出荷している。現在、直売所と学校給食それぞれでニーズの高い品目を把握し、部会に情報提供することで生産振興を図っており、今後も継続していく。</li> <li>・三宅島では台風や冬季の季節風による強風の対策は必須である。野菜や果樹を安定生産するためには施設栽培は有効であるが、コストが高いため導入が困難な農家もいる。露地栽培では防風林の整備やカンキツの簡易防風ユニットのような安価な技術の導入を勧め、安定生産を図っていく。環境への配慮や省力化のために防除回数の削減は必要であり、有機農産物に使用できる農薬の積極的な利用や耐候性・耐病害虫性を持つ品種の導入、防除資材の活用などを引き続き検討する。</li> <li>・島内の過酷な栽培環境下でのこうした取組を消費者にPRし販売に活かせるよう支援を行っていく。</li> </ul>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- (1) 現地視察で島民の方々から頼りにされている様子がよく分かった。若い就農者が元気でうれしかった。
- (2) 導入したカンキツはそろそろ収穫が始まるので、販売、流通については今後の支援にかかっている。
- (3) 今回の評価対象ではないが、管内の御蔵島では人口減が抑えられているとの統計があり、移住策との連携ができる。高投資の公的ビジネスも視野に入れてみては。

令和5年度普及指導活動評価の結果と対応

島しょ農林水産総合センター八丈事業所  
八丈普及指導センター

課題名	総合評価	評価できる点	改善すべき点	対応策
島しょ地域における意欲ある担い手の確保・育成	A  〈評価内訳〉 A 4人 B 0人 C 0人	<p>普及課題として数値目標が明確であり、育成した人数だけでなく、テーマや回数といった組織活動も目標化されている点が高く評価できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町営の研修制度との密な連携がとられている。</li> <li>・女性の活躍支援がなされており、レモンの販路および販売量拡大や加工において普及指導員の支援が活かされ、ブランド化にも貢献している。</li> <li>・研修施設については八丈町が模範となり他島の町村に波及している。2008年からの取組が功を奏しており、維持発展している。</li> <li>・指導農業士の育成、および彼らを通じた技術普及が成果をあげている。</li> </ul>	<p>成果は十分に上げているが、担い手をさらに確保するための取組を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後の農地の確保支援やそのアピールが必要。</li> <li>・島内の農産物ニーズの掘り起こし、さらなる支援。</li> <li>・認定農業者としての更新を続けていくこと</li> <li>・島外からの移住者や、都内大学・高校の実習やボラバイト、ワーケーション等呼び込み、人材育成や関係人口の増加を図る。</li> </ul>	<p>八丈町では、町営の担い手育成研修センターを拠点に、八丈町、JA、八丈支庁、試験研究など関係機関が連携し、担い手の確保、育成に向けて重点的な取組を続けている。特に近年は島外かつ農外の新規就農希望者が増えてきていることから、担い手確保のための更なる取組の強化を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修後の農地確保については、研修中より町による農地仲介が進められ、研修修了後に滞りなく就農できるような支援体制が取られている。普及指導センターは、研修生の就農に関する意向などの情報を随時関係機関と共有し、円滑な就農を推進していく。</li> <li>・八丈町の主要農産物である切葉、切花はほとんどが島外出荷用であり、島内における主な農産物ニーズは野菜類や果樹類と考えられる。これまでのJA女性部による野菜類等の島内直売において、消費者からの要望に応じて新たに導入した作目もある。今後も直売を含む島内販売所等における聴き取りを行うなど、ニーズの把握、掘り起こしに努めていく。</li> <li>・認定農業者については、町、支庁と連携し、生産性向上に向けた栽培技術指導や経営収支改善のための営農相談など、経営改善計画達成に向けた支援を継続し、更新を促していく。</li> <li>・島外からの移住者対応や島外の教育機関との連携など、八丈町の人口増加と人材育成に関わる大きな課題であるため、島内外の各関係機関とも連携しながら対応を検討していく。</li> </ul>

総合評価 A：高く評価できる B：概ね評価できる C：見直しが必要

その他の自由意見

- (1) 担い手の確保、育成は重要課題である。
- (2) 八丈島の女性農業者のSNSをよく見ている。元気な農業者の周りには支援する方々の協力があるのだと理解した。
- (3) 伊豆諸島のなかでも八丈島は農業生産額が突出しているのので、連携をとり、島しょ部全体のリーダー的な活動を願う。